

ウチとソト、上と下 ～地産地消のススメ～



▲ 外観

設計趣旨

道路と敷地の高低差が最大 1.9m ある土地の性質を活かして、よりプライベートなスペースを確保できるように、道路から距離を離す配置計画。

高低差があるために上下を分断するのではなく、上と下がロックライミングのように繋がり、大人も子ども楽しめる外部空間とする。

内と外を大開口サッシや軒の深いウッドデッキで繋げ、家が街の周辺地域や街並みに溶け込む佇まいを併せ持つ。



▲ 施工前

建築概要

敷地面積：233.72 m ²	外装仕様
建築面積：81.15 m ²	屋根：ガルバリウム鋼板
1階床面積：71.21 m ²	外壁：そとん壁
2階床面積：29.81 m ²	内装仕様
延床面積：101.02 m ²	天井：和紙クロス、杉板貼り
	壁：チャフウォール
	オガファーザー
	床：クリ、サクラ

工夫その① 「撤去処分予定が…」

敷地内の石垣を撤去処分して、新築擁壁を計画するよりも、撤去石垣を再利用して、土留に使用したり、飛石に使用したり、現地で消化する方がいい。

コストも削減、処分時に発生する二酸化炭素も減少し、環境へ配慮することも可能とした。



▲ 石垣



▲ 外観



▲ 内観

工夫その② 「地産地消」

兵庫県宍粟市の山から伐採された木材を利用して柱と梁に使用しています。

一部長スパン梁については、集成材を併用することで無理のない適材適所の架構計画としています。

化粧梁として見せる事で、地元の木を常を感じる事ができ、製材所に足を運び、木材の持つ豊かさに触れ、感じ、理解いただくことで子世代、孫世代まで、永く住み繋ぎたくなる家づくりを行います。



工夫その③ 「圧迫感を与えない」

道路から高低差があるため、高い擁壁を設けると通行人への圧迫感を与えてしまう恐れがあった。高さを抑えた石積みを階段状に配置することで道路への圧迫感をあたえない工夫とした。

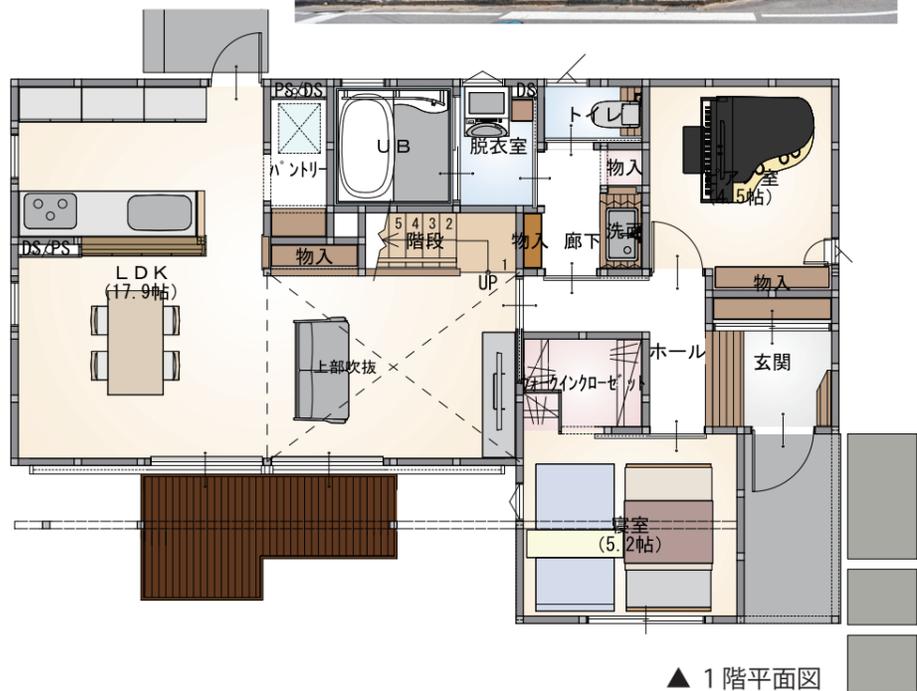


▲配置図

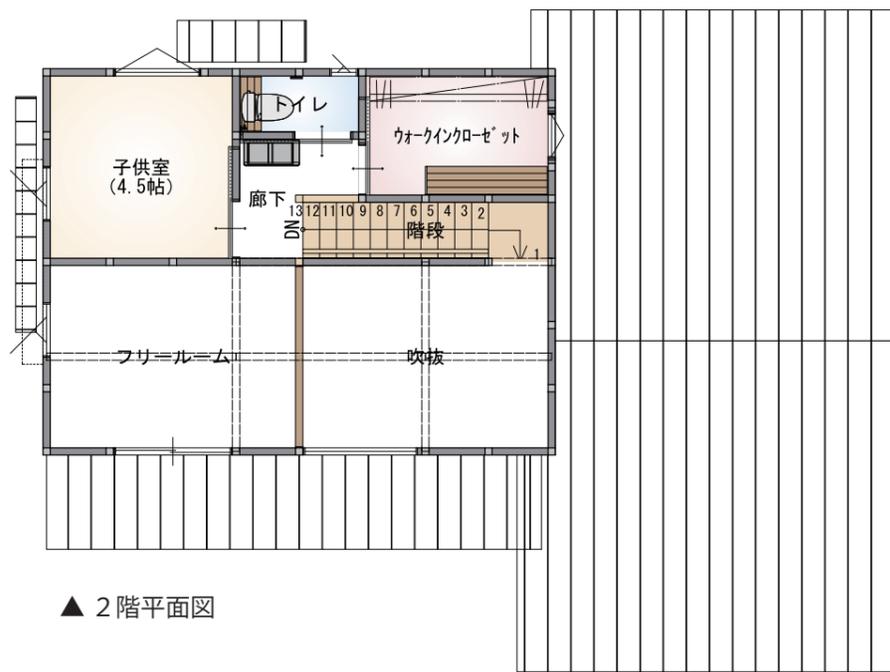
工夫その④ 「庭(ソト)を好きになる」

～はじまりの島淡路島を望む～

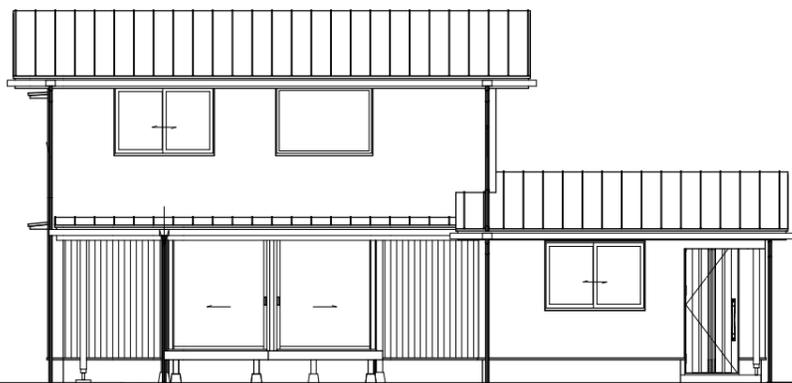
西側下段、一部の植栽を植えずに引き渡した。施主自身の手で植えてほしいから。自身の「手」で作業することで愛着が沸き、庭(樹々)を好きになる。庭の先に望むはじまりの島淡路島を庭越しに楽しむ。



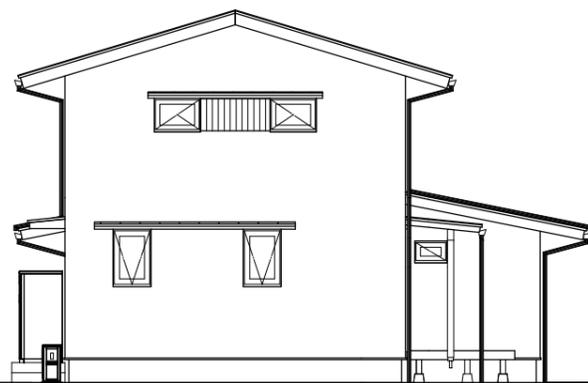
▲1階平面図



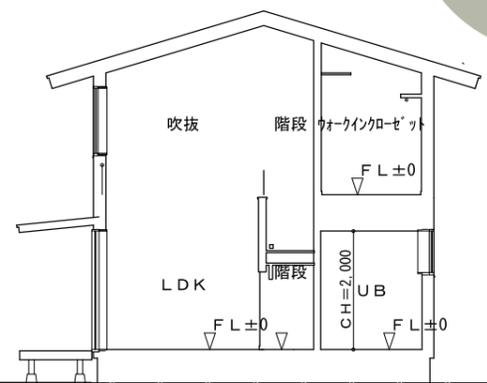
▲2階平面図



▲南立面図



▲西立面図



▲断面図